

橋本コラム トールのトーク

今夜、「はじめてのおつかい」というテレビ番組がある。

半年に一度の放送だが毎回楽しみにしている。

子供のお遣いとユーモラスなナレーションで3時間があつという間に流れてしまうほどに面白い。思わず笑ってしまったり、ほっこり涙することもしばしばだ。

ほとんどが、母親が子供にお遣いを頼むことから始まるのだが、なかなか出かけられない子供も、ほほほほいる。

産まれて4年足らずの身には、一人で家から一歩踏み出すには勇気もいるよな。中には8時間かけてやっと出かけた子もいたなあ。カメラを持ちながら待機するロケハンも大変なものだ。

ただ、子供ってすごく買い物へ行く前と、行った後の顔つきが全然違う。達成感とでもいうのか、一回り大人になるんだろう。

送り出す親のほうも心配しながら送り出しているのが観る側にも伝わるから、やり遂げた我が子を迎えるうれしさも伝わり、視聴者ももらい涙になってしまうのだろう。

最初に見たころは子供のほうに感情移入していたぼくも、自分の母も心配しながら、実家から送り出したのかと、親に感情移入することが多くなった。

…にしてもだ、子供の可能性は無限だ。そして、素直で嘘がない。

…にもかかわらず大人になると嘘が増えてくる、なぜだ？

思うに大人は驕りのあまりに「ありがとう」「ごめんなさい」を忘れてしまうらしい。政治もそうだが、「ありがとう」はともかく、身近なコミュニティでもちゃんとした「ごめんなさい」は聞かれない場面が多々ある。子供の心では生きてはいけないが、ぼくもあの人も、人の気持ちを考えられる人間にはなれる、あるいは戻れる、はずだ。

静岡障害者自立生活センター：橋本徹



(編集後記)

一日中パソコンの前に座って仕事をしているので、このところ運動不足を痛感している。…で、最近我が家に導入したのがOCULUS QUESTというVR（仮想現実）ゲーム機。これまでゲームなんてやったこともなければ関心もなかった私が、いったいなぜにゲーム機？それは我が家をVRジムにしてしまおうという魂胆なのだ。私は急げグセが強いので、ただ走ったり、ストレッチしたりするのは、まず3日ともたない。でも不思議なもので、このゲーム機のゴーグルをつけると、たちまち別次元の世界にワープして、必死に剣や銃を振り回したり、ボールを追いかけたりしている自分がいる。…で気がついてみると結構な汗をかいていた…というワケである。VR（仮想現実）というのは、AIや自動運転技術などと共に、未来を占うキーワードのひとつだが、たしかにこのゲーム機のゴーグルをつけた時の、没入感たるやハンパじゃない。ぜひ皆さんもお試しあれ。

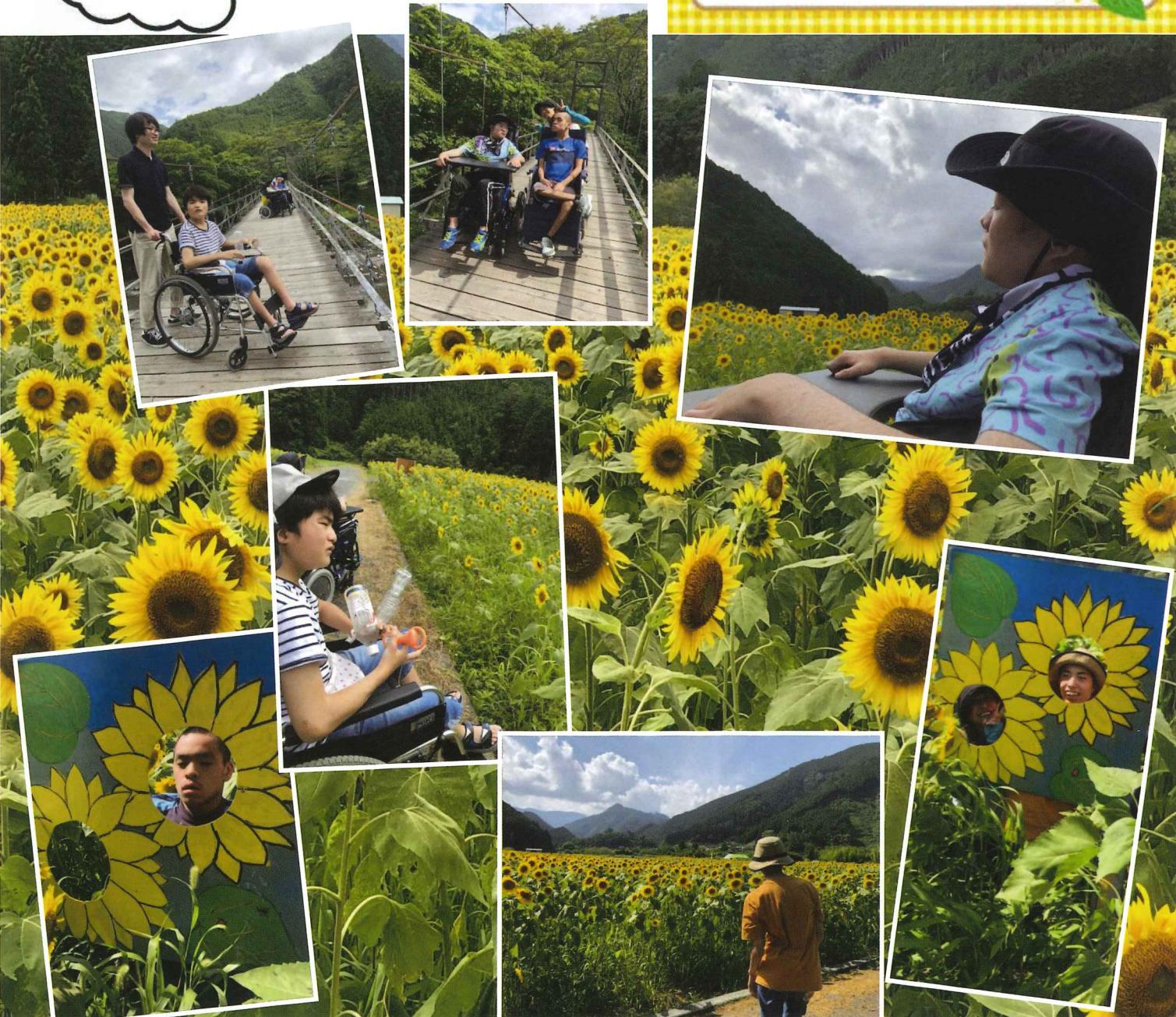
（広報委員：奥村譲）

“どんなに重い障害があっても
地域で共に生きる社会”を目指して！



NEWS

2019年
9月号



放課後等デイサービスらるく 夏休みのでかけを楽しみました！～静岡市葵区桂山のひまわり畑にて

～今月の目次～

映画「サマーキャンプ in 焼津」上映とデンマーク交流（それいゆ就労継続支援B型）	2
“私たちのことを私たち抜きに決めないで”の実現をめざして	4
おでかけレポート（グループホームななへら）	6
連載：ひまわりヒストリア 1999年静岡市で初めて車椅子議員が誕生！	8
静岡市障がい者共生のまちづくり計画策定懇話会参加について	10
橋本コラム「トールのトーク」	12

「サマーキャンプ in 焼津」映画上映とデンマーク交流

デンマークにある、エグモントホイスコーレンという学校の学生さんが焼津でキャンプを行った時の映画を上映しました。大勢のボランティアが関わり、障害はもちろん、人種や国籍を超えて様々なアクティビティーに挑戦するプログラムに、見ている側もとても楽しくワクワクする内容でした。
最初はみんな緊張気味でしたが、すぐに打ち解け、笑顔が絶えない一日となりました♪
次はぜひ、静岡でもキャンプができたら・・・★



「そのタトゥーは本物ですか?」という宮川さんの質問に、一気に会場が打ち解けました♪



エグモントホイスコーレンとは・・・?

北欧独自の「試験も成績もない」学校であるフォルケのひとつです。その中でも、エグモントは障害者と健常者が一緒に学ぶ学校です。
全寮制で、障害者と健常者が5~6人1チームになり、障害者をサポートしながら、寝食を共にし日中は色々なアクティビティーにチャレンジします。
自分の意思を上手く伝えられない障害の方であっても、チームがサポートしていくので問題ないとのことでした。



言葉の壁なんて
関係なく会話が
楽しめたね!!

~2~



就B
それいゆ



たくさんの笑顔を



ありがとう!!



Hav det godt!!

~3~

nothing about us without us

～私たちのことを私たち抜きに決めないで～の実現をめざして

文責：大川速巳（静岡障害者自立生活センター）

先日の参議院議員選挙において、二人の重度障害者（船後靖彦氏と木村英子氏）がみごと当選を果たした。ネット上などでは賛否もあるが、24時間介助が必要な最重度障害者が当選したことは非常に重要な意味があると思う。

社会の中にあるバリア、環境にあるバリア（社会的障壁）の存在を国会から認識させていってくれるとともに、介助の必要性や合理的配慮について、障害者アドボカシーの観点からも真にリアリティをもって伝えることができる。

日本は障害者権利条約の批准国である。

来年には2020東京オリンピック・パラリンピックが控えている。

障害を持つ人が、あらゆる差別・制限・制約・区別をされず、分け隔てられないインクルーシブ社会を目指すことは、条約の批准国である日本にはその義務がある。



船後靖彦氏（キャリコネニュースより）

障害者基本法の改正や障害者差別解消法の制定、バリアフリー法改正など、障害者の権利擁護に関する法律や制度が進んできたが、まだまだ世間には浸透していない。

合理的配慮を提供することは特別なことではないし、障害者を特別扱いして優遇することでもない。

合理的配慮をすることで、ようやく障害のない人たちと立ち位置が平等になる。

逆に言えば、現代の社会で障害者が100%社会参加を果たせているか？といえば、それはNOである。

まだまだ障害者に対する接遇や交通機関が100%バリアフリー化しているわけではないし、障害のある人の社会参加の機会均等にはまだまだ遠い。

よって、この社会は機会不均等の不平等な社会なのである。

なので、障害のない人も障害のある人も、すべての人がまだ平等のスタートラインに立てていないという認識をまず持たなければならないし、合理的配慮を考えること

ことが何ら特別なことではなく、それは「一般の人が二階建ての家に階段をつけること」と大きな変わりはない、と理解していかなければならない。

また、二人の障害者議員が、重度障害者の地域生活に必要な24時間介助保障であるとか、多種多様な人たちの共生共存（インクルーシブ）社会の在り方を、国の中心から國民に向かってリアルに見せていくことも、大変な意味がある。

今回当選した二人を排除したり、特別扱いするのではなく、共に生きる人として、共に考えていかなければならないし、それを国会、国会議員から國民に見せていく、表現していくことで、社会の意識が大きく変わっていくと思う。

そうした意味で、今回の障害当事者の参議院議員当選は、ものすごく意味があるし、日本にとって大きなチャンスでもあると思う。



今年もやります！

第3回 ひまフェス

令和元年10月19日（土）

ゲスト 清水ウインドオーケストラ
リノ・ピリアロハ・フラセラピー^{（フラダンスチーム）}
他、楽しい催しがいっぱい！



余暇活動を楽しんでます♥



① 沼津港でのランチ&クルージング 6月8日

今回は5人で海の幸をお腹いっぱい食べて
初めてのクルージングも満喫

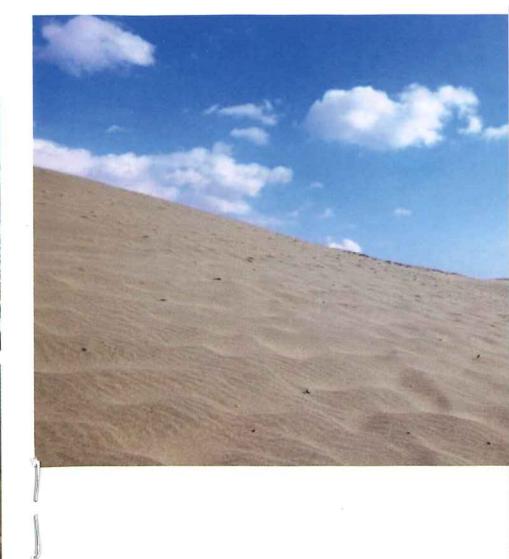


② うなぎパイファクトリーの 工場見学 からの、中田島砂丘散策 1月14日 この日は4人で楽しみました♪

コンシュルジュ付きの見学と
自由見学について紹介するよ!!



~6~



③ 三島柿田川公園を散策 8月10日 総勢5人、涼しい…0さんもしっかり歩いた1日でした。



ひまわりヒストリア～あの日あの頃～

その7 1999年 静岡市で初めて車椅子議員が誕生！

文責：奥村譲（総務部）

先の参院選で二人の重度障害者議員が誕生

先の参議院議員選挙で、二人の重度障害者（れいわ新撰組）が当選をはたしたことが話題になった。過去にも、障害を持つ国会議員がいるにはいたが、いわゆる「重度」とは言い難かった。今回当選した二人は、人工呼吸器を使用して医療的ケアを必要としたり、常時介助が必要であったりする点で、紛れもない「最重度」であり、そういう意味では、二人の当選は、憲政史上画期的な出来事だと言える。

かつて静岡にも重度障害者の議員がいた！

しかし、忘れてはならないのは、今から遡る20年も前に、地方議員レベルではあったが、静岡市に「人工呼吸器を使用」し、「24時間介助が必要」とする障害者議員がいたという事実である。その名は、皆さんもご存じのとおり、当団体（静岡障害者自立生活センター）の創設者であり、長らく代表を務めた渡辺正直（わたなべまさなお）である。

市議選への出馬を決意した時、渡辺は、当時ある機関誌のインタビューに対してこう答えている。

「もし私が議会に乗り込んでいたら、おそらく議会の構造や運営自体を根本から変えざるを得なくなるでしょう。」

「静岡市に手帳を持った障害者だけでも1万3千人（※当時）いるんです。その人たちを代弁する議員が一人ぐらいいても当然でしょう。」

「障害者や高齢者といった社会的弱者にやさしい街は、誰にとっても住みやすい街であるはずです。静岡をそんなステキな街にするためのパイオニアに私はなりたいと思っています。」

1999年春、特定の政党や組織に頼らない、市民のパワーによる草の根選挙を戦い抜き、渡辺は見事に初当選を果たした。

静岡市初めての「車椅子の市議会議員」誕生に、マスコミは沸いた。

当時の新聞記事を見返してみると、このような見出しが躍っている。

「議場の段差なくす」静岡の渡辺さん初当選
「車いすで初仕事 急造のスロープ利用」
「車いすの目線で 市民と議会近く」



~8~

議場のバリアフリー化と議員活動中の介助

当選した渡辺が、まず真っ先に取り組んだのが、議場のバリアフリー化であった。

渡辺が議長あてに提出した要望書により、あちこちにスロープが設置され、議員が登壇する舞台は、車椅子の高さに合わせて上下するように造り直された。

議員活動中の介助者の扱いについても問題になった（当時、障害者総合支援法はなく、重度障害者は静岡市独自の登録ヘルパー制度を活用していた）。

進行性筋ジストロフィーという重度の障害者であり、人工呼吸器を使用する渡辺は、たとえ議員活動中であっても、常時介助を必要とした。

痰の吸引等が頻繁に必要なので、常に慣れたヘルパーが横にいないと、たちまち生命が危険にさらされる。

結局、議会開催中は、市から派遣された職員が横について、代筆や書類のページをめくる介助をすることになり（渡辺の介助者は議場の隅で控える）、それ以外の議員活動には従来どおりヘルパーを使つてもいい、ということで落ち着いた。



渡辺が残したもの

渡辺正直は、1999年から2005年まで1期6年間市議を務めた。

通常市議の任期は4年であるが、静岡市と清水市の合併の時期に重なったため、異例的にこの時だけ任期が2年延長されたのである。

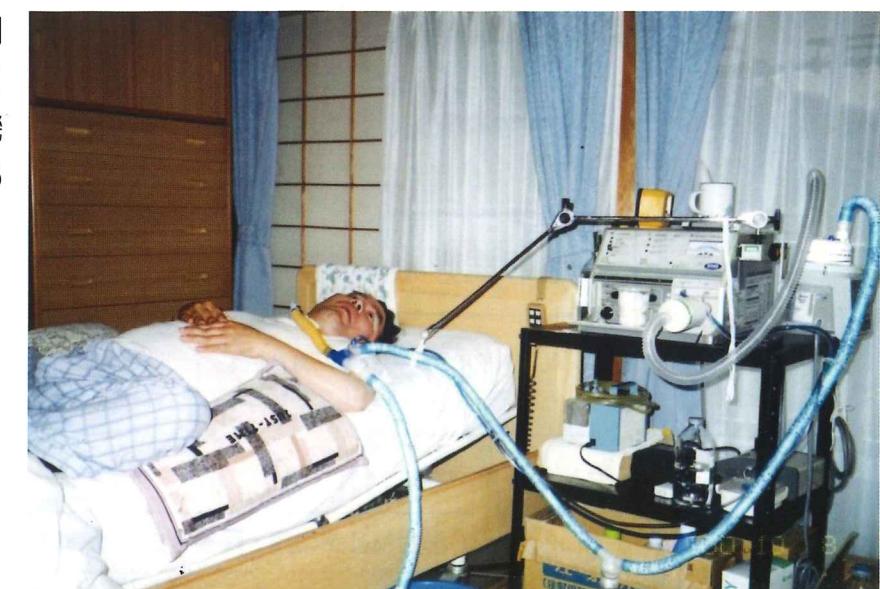
この任期中に渡辺が取組み、実現までこぎつけた施策のひとつに、「知的障害者ガイドヘルパー制度」（2000年）がある。

当時は、まだ障害者総合支援法がなかったので、知的障害を持つ人が家族や友人以外と外出を楽しんだりするには、ボランティアを依頼するという選択肢しかなかった。

しかし、この「知的障害者ガイドヘルパー制度」施行により、市内の知的障害を持つ多くの人たちが、ヘルパーを使って社会参加の機会を得ることができるようになったのである。



~9~



静岡市障がい者共生のまちづくり計画策定懇話会

参加について

編集：柴田昭平（広報委員）

そもそも静岡市障がい者共生のまちづくり計画ってなに？？？

静岡市では「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」が策定され、障害の有無に関わらず、地域で安心して自分らしく暮らすことのできる「共生都市」の実現を目指しています。この計画は3年ごとの見直しとなっており、今回は令和3～5年度の次期「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」の策定を静岡市が始めています。

策定懇話会ってなに？？？

次期「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」が策定される事にあたり、市民に対しての質問アンケート項目の作成段階から、静岡市の障がい者団体や福祉関係事業所が参画し、意見交換により計画を策定するために静岡市が開催しているものです。

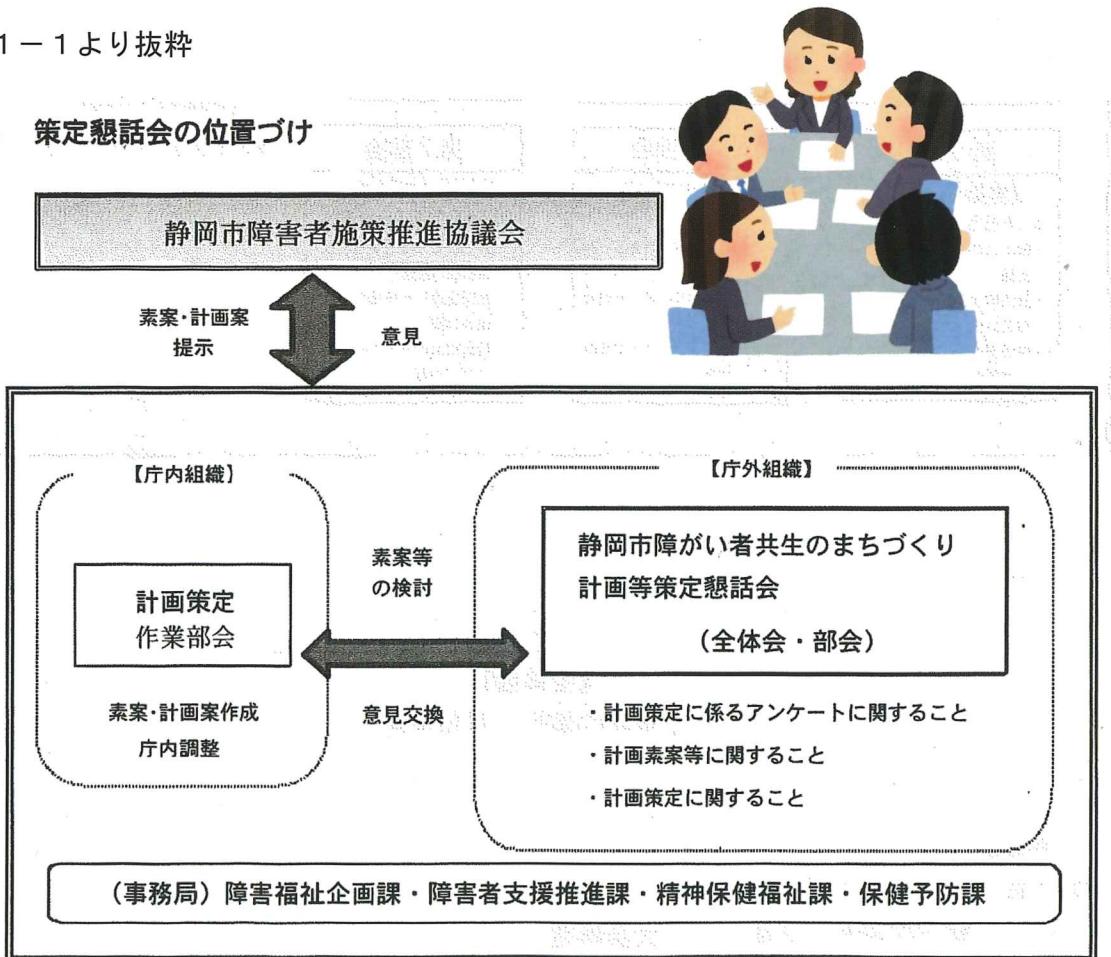
懇話会での意見交換の内容

※懇話会資料1-1より抜粋

- ①静岡市障がい者共生のまちづくり計画の策定に係るアンケートに関する事。
- ②静岡市障がい者共生のまちづくり計画の計画素案等に関する事。
- ③静岡市障がい者共生のまちづくり計画の実施に関する事。
- ④①～③に掲げるものの他、静岡市障がい者共生のまちづくり計画の策定に関し、市長が必要があると認めること。

※懇話会資料1-1より抜粋

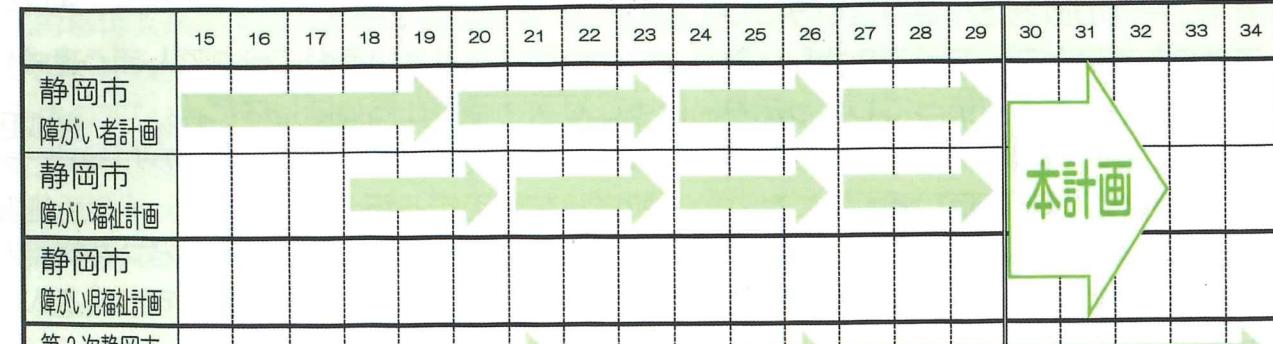
3 策定懇話会の位置づけ



現在の「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」（本計画）は下記3つの計画が一体となった計画です。

※静岡市障がい者共生のまちづくり計画 平成30年3月より抜粋

- 本計画の計画期間は、平成30年度から平成32年度までの3年間とする。



ひまわり事業団と静岡障害者自立生活センターの役割って？？？

以前からひまわり事業団の障がい当事者たちも、このような市の施策に参画し、自身の日常生活の課題について様々な意見交換をしてきました。今回は、地域で暮らす障がい当事者の日常生活がより良くなる為に法人として懇話会に参加します。

令和元年第一回策定懇話会に参加して

私たちの法人の中にも医療行為がある利用者の方、内部障害の方等関わる方が多いので、日常生活や災害時の事等の意見を集約して、当事者の代弁者として参加していきたいと思います。 （文責：小久江寛）

私は今回が初めての参加となり、今までこのような懇話会の存在を恥ずかしながら知りませんでした。私のグループで出た意見は辛口な意見が多かったです。途中アンケートについての意見交換から話題が逸れ、普段各々が事業所で抱える悩み、市への不満などをぶつけ合い、白熱した雰囲気となりました。静岡市の職員の方と直接意見交換ができる機会は滅多にないことです。況してや障害当事者が意見を伝えることができる機会はとても貴重です。そのような中で私が心掛けているのは、意見や要望を伝える私たち障害当事者も頭ごなしに気持ちをぶつけるのではなく、謙虚な姿勢を忘れないこと。

今後、自分が住んでいる市とのサービス内容を比較しながら、みんなが望んでいる思いを伝え、満足のいくサービスをより多くの方が受けられるように勉強しながら参加していきたいと思います。 （文責：鈴木香奈）

